



TOHOKU
UNIVERSITY

NEWS LETTER



TOHOKU UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL OF DENTISTRY

2022.06

Vol.
25

総括副院長（歯科診療部門長）就任の挨拶

東北大学病院
総括副院長（歯科診療部門長）

江草 宏



1998年 広島大学歯学部 卒業
1999年 香港大学歯学部 研究助手
2002年 広島大学大学院歯学研究科 修了(博士)
2002年 日本学術振興会 特別研究員
UCLA ワイントロープセンター 客員研究員
2004年 大阪大学大学院歯学研究科 助手/助教
2014年 東北大学大学院歯学研究科 教授
2018年 東北大学病院 副院長
2018年 東北大学大学院歯学研究科 教授
歯学イノベーションリエゾンセンター長
2018年 東北大学 総長・プロボスト室員
2022年 東北大学病院 総括副院長

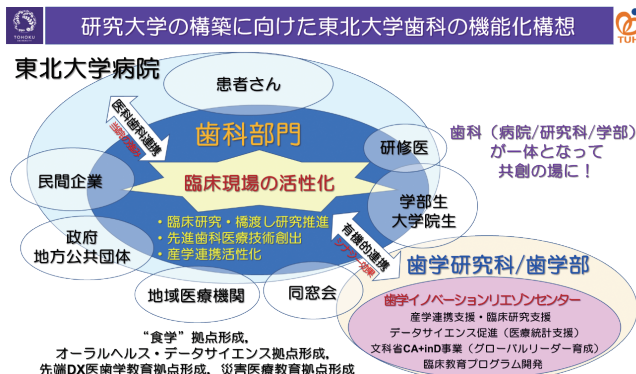
令和4年4月1日付で東北大学病院総括副院長（歯科診療部門長）に就任いたしました。当院の基本理念および将来構想は、「患者さんに優しい医療と先進医療との調和を目指した病院」です。歯科診療部門はこの理念を基に、高次歯科医療を東北医療圏に提供すべく日々全力で取り組んでまいります。

私は、平成30年に高橋哲総括副院長のもと、医療安全・研究担当副院長に命ぜられ、以来、病院運営に携わらせていただいております。令和2年からは、五十嵐薫総括副院長のもと、経営・総務・感染対策担当副院長を経験させていただきました。新型コロナウイルス感染症と対峙しながら、「感染」と「経営」という、相反する重要事項の両立に神経をすり減らす毎日でした。さらには二度にわたり震度6クラスの地震に見舞われ、まさに災害の任期でした。この間、諸刃の剣となり得る攻めの運営方針を温かい目で見守っていただいた五十嵐先生には感謝の言葉もございません。結果的には感染症クラスターを出すことなく、経営的には黒字で任期を終えました。私が何をしたわけでもないのですが、五十嵐先生のリーダーシップに加え、各部署の先生方のご尽力と事務方を含めた歯科部門全体のチームワークに支えていただき、感謝の念に堪えません。

さて、withコロナに慣れてきた昨今ですが、目先のリスク管理に安住すると思えば内向きになりがちです。一方でコロナ禍はICTやAI等の科学技術の発展を強烈に刺激し、社会は予測不可能なほど目覚ましいスピードで変化しています。時を同じくして、政府は科学技術立国の実現に向け10兆円規模の大学ファンドを設置しました。これを背景に、私は総長・プロボスト室員として、世界と伍する研究大学の構築に向けた検討に加わるようになりました。また、関連する内閣府の国際研修プログラムに参加させていただき、海外の研究大学の仕組みに触れました。そんな中、我々病院歯科部門は、今こそ戦略的視点をもって創造力と実行力を開放し、新たな価値を生み出す時と考えるようになりました。

私の任期では、臨床系部局として歯科の強みである『臨床現場』の活性化を最重要視し、これを歯学研究科/歯学部と有機的に連携させることで、日々の診療から無理なく臨床研究、先端医療技術や産学連携を生み出し、高度医療人材を育成するシステムを構築していきたいと思っております。また、医科歯科連携を強みとする我々病院歯科部門の価値を、公共財として幅広いステークホルダー（患者さん、地域医療機関、学生、同窓会、企業、政府など）に見えるようにし、歯科が一体となって共創の場となることを目指します。実現には課題も多くありますが、齋藤正寛副院長、飯久保正弘副院長を中心に特別補佐の先生方に支えていただき、科長会で議論しながら鋭意進めています。同時に、歯学研究科/歯学部との協働を、歯学イノベーションリエゾンセンターを軸に進めてまいります。

皆様にとって「地域になくはならない身近な東北大学歯科」と思ってもらえるよう、歯科構成員の力を結集して尽力してまいります。皆様のご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



INDEX

- p1 ・巻頭言 / 江草宏 総括副院長
- p2 ・新任特命教授紹介 / 竹内研時 特命教授
- ・笹野泰之教授が令和3年度総長教育賞を受賞
- p3 ・活躍する卒業生 / 本田義知 教授
- ・PRESS RELEASE
- 『歯の移動を促進させる加速矯正治療のメカニズムを解明～矯正治療の期間の短縮へ光明～』
- p4 ・各種おしらせ

特命教授就任のご挨拶

歯学イノベーションリエゾンセンター
地域展開部門 特命教授

竹内 研時



2009年 東北大学歯学部 卒業
2013年 東北大学大学院歯学研究科 博士課程修了
九州大学大学院歯学研究科口腔予防医学分野 助教
名古屋大学大学院医学系研究科予防医学分野 准教授
2019年 名古屋大学大学院医学系研究科予防医学分野 准教授
2021年 東北大学大学院歯学研究科国際歯科保健学分野 准教授
東北大学大学院歯学研究科歯学イノベーションリエゾンセンター地域展開部門 特命教授

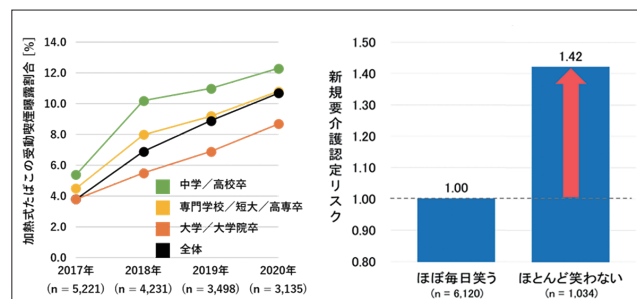
この度、令和3年11月16日付けで、東北大学大学院歯学研究科歯学イノベーションリエゾンセンター地域展開部門の特命教授を拝命しました竹内研時と申します。

わたしは平成21年3月に東北大学歯学部を卒業(39回生)後、本学大学院歯学研究科国際歯科保健学にて、小坂健教授のもと、相田潤先生にご指導いただき、社会疫学研究に取り組みました。研究テーマの一つは、幼児の受動喫煙防止を目指した親の喫煙行動の社会的決定要因の検討でした。当時、幼児の親の喫煙行動は自身の社会経済的地位以上に地域の社会経済的地位の影響を受けるという研究結果を受け、個人の努力以上に公衆衛生的観点からの受動喫煙防止の取組の必要性を痛感したことを今も覚えています。その経験は本学に戻った今、たばこを巡る新たな社会問題として、加熱式たばこの受動喫煙実態(左図:急速な曝露増加と教育歴格差)を初めて報告することにつながりました。

話を大学院修了後に戻しますと、平成25年4月からは九州大学大学院歯学研究科口腔予防医学の助教として、山下喜久教授のもと、基礎研究を土台に健康増進を目指す新たな視点を身に付けました。また、60年以

上の歴史を持つ久山町コホート研究の歯科部門を担当させていただいたことで、口腔と認知症やCOPD等の様々なNCDsとの関連を成果報告することができました。平成31年3月からは名古屋大学大学院医学系研究科予防医学の准教授として、若井建志教授が当代表を務めたJ-MICC Studyの中央事務局長を務め、大規模ゲノムコホート研究の運営に携わりました。また、歯科分野以外にも研究の幅を広げ、笑いの研究(右図)への取組も開始しました。令和元年5月には、これまでの研究を評価いただき、日本口腔衛生学会学術賞LION AWARDを拝受し、口腔衛生学分野の研究者としての責任と自覚を新たにもつ契機となりました。

今後の抱負としまして、地域展開部門ではこれまで以上に多くの地域共同研究を実施するとともに、大規模リアルワールドデータを活用した口腔のエビデンス創出とそれに基づく健康政策の提言を推し進めていけるよう一層精励いたす所存でございます。浅学の身ではございますが、東北大学の諸先輩方が築いてこられた歴史と伝統を尊重し、本学の一員としてその名に恥じぬよう精進いたして参りますので、今後ともご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



▲(左図) 教育歴別の加熱式たばこの受動喫煙曝露割合経年推移 (右図) 笑いの頻度別の新規要介護認定リスク

笹野泰之教授が令和3年度総長教育賞を受賞

顎口腔組織発生学分野の笹野泰之教授が令和3年度東北大学総長教育賞を受賞し、3月15日に大野英男総長から賞状が授与されました。総長教育賞は、東北大学の教育理念に基づき、誠意と熱意をもって職務に取り組み優れた教育の成果を挙げた教職員を表彰するものです。

- 【受賞理由】
1. 歯学部教務委員長として、東北大学歯学部を特徴づける授業を立ち上げ、授業改善を継続して進め、学生支援のシステムも構築しました。
 2. 学務審議会・教育情報評価改善委員会委員長として、学生の授業アンケートの実施と教員へのフィードバックおよび成績評価基準の検討を担当し、また、全学教育FDを企画運営して、全学教育の授業改善に貢献しました。

受賞に際して

顎口腔組織発生学分野 教授

笹野 泰之

この度、貴田勝彦氏(平成16年度受賞時技術職員)、鈴木敏彦准教授(平成24年度受賞時助教)、洪光教授(平成30年度受賞時准教授)に続き、歯学研究科・歯学部の4人目の受賞者として総長教育賞をいただきました。栄えある賞をお受けしたことを大変嬉しく存じます。私の受賞は歯学部専門教育と東北大学全学教育の企画運営や授業開発等に関わってきた仕事を対象とするものでした。このような取り組みを歯学部と全学で16年間に渡り継続して進めることができたのも、歯学研究科の教職員の皆様と学生の皆様のおかげです。また、受



▲授与風景

賞に際しては歯学研究科教授会および歯学部教務委員会にご推薦をお願いいただきました。この場をお借りして、皆様にご挨拶申し上げます。



▲集合写真(前列左から一人目が笹野教授)

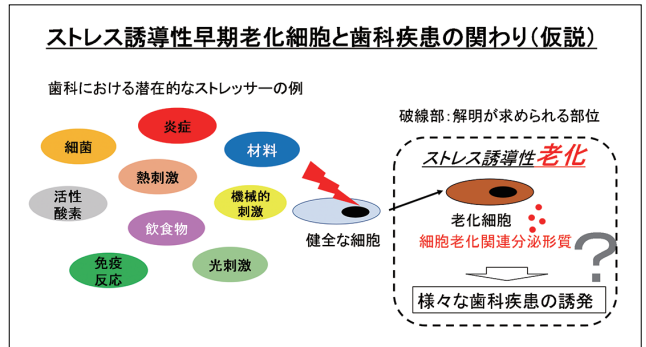
大阪歯科大学教授就任の挨拶

大阪歯科大学
口腔解剖学講座 主任教授

本田 義知



2004年 東北大学 歯学部 卒業
2007年 学術振興会特別研究員(DC2-PD)
2008年 東北大学大学院歯学研究科 修了
2009年 東北大学歯学研究科 顎口腔機能創建学分野 助教
2010年 UCLA ワイントロープセンター 客員研究員
2012年 大阪歯科大学 中央歯学研究所 助教
2021年 大阪歯科大学 口腔解剖学講座 主任教授



2021年8月1日付けで大阪歯科大学歯学部口腔解剖学講座の主任教授に就任いたしました本田義知と申します。

大阪歯科大学は、1911年に大阪歯科医学学校として創設された歯科における伝統校であり、2024年には看護学部の開設を控え、医療系総合大学に向けての歩みを急速に進めております。そのような大学で口腔解剖学の教授に就任したとお伝えしますと、「人体解剖を行うの?」とよく聞かれますが、本講座では人体解剖はせず、歯の形態や歯列・咬合に関する「口腔解剖学」、歯型彫刻実習、歯・歯周組織に関する「口腔組織学」を主に担当させて頂いております。

さて、光栄にもNews letterへの寄稿機会を頂きましたので、東北大学大学院歯学研究科時代について簡単にお話させていただこうと思います。同課程では特に、鈴木治教授、鎌倉慎治教授、穴田貴久准教授(現九州大学)から、生体材料学を用いた再生医学という学際領域を通して、共同研究の重要性を学ぶ機会を頂きました。また、鈴木教授、穴田准教授は工学部ご出身であったため、歯学部の教育的プログラムでは深掘りされない無機・有機合成レベルで求められる基礎的な材料学や、背景となる他分野の

考え方などを一から学ぶことも出来ました。現在私達は、新規材料を独自開発・応用することで未解明の生命現象や効率的な治療法開発に挑む研究を志向しております。その際重要となる共同研究を円滑に進めるための基礎力をじっくり培って頂いた貴重な時間だったと大変感謝しております。

現在進行中の研究についても少し触れさせていただきますと、歯科疾患において大きく見落とされてきたストレス誘導性早期老化細胞(必ずしも加齢に依存しない老化細胞)に着目し、同細胞の機能解明や制御法の開発を多角的に進めております。歯科の入り口である口腔解剖学の知識を基盤としつつ、工学・情報工学・他など多様な知識を取り込み、複数の細胞が統合して動く基本原理の解明に加え、口腔・顎顔面領域の難治性疾患に関わる新規機構の解明や新規治療法の開発等も進められればと考えております(個人的にですが、後者を「応用口腔解剖学」と呼んでおります)。本講座は、「楽しみながら、皆で成長する」をモットーとし、私も含めた皆(教員、院生、学生)が一歩一歩成長できるような講座を目指しております。まだまだ浅学の身でございますが、一層精進してまいりますので、今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

PRESS RELEASE

歯の移動を促進させる加速矯正治療のメカニズムを解明 ～矯正治療の期間の短縮へ光明～

矯正歯科治療では、治療期間が長いという問題点があります。歯槽骨に微小の穴を開ける特殊な方法により、その治癒作用で組織の代謝作用が増加する現象が知られています。東北大学大学院歯学研究科顎口腔矯正学分野 金城里阿大学院生、北浦英樹准教授および溝口到教授らの研究グループは、モデルマウスの歯槽骨に微小な穴を開けることで、歯の移動が促進されることを確認しました。

これは、微小な穴をあけることにより、炎症性サイトカインTNF- α の増加、増加したTNF- α により破骨細胞の増加が起こり骨の吸収が増すことで、歯の移動が早くなるためであることを見出しました。さらに、TNF- α が間質系細胞からの破骨細胞誘導因子であるRANKLの発現を増加させ、破骨細胞形成を増加させることにより歯の移動が促進されることを見出しました。

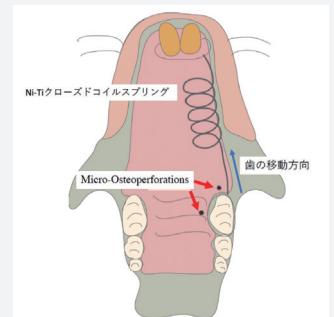
本研究成果により、歯の移動を加速させ矯正治療期間の短縮に役立てることができそうです。

この研究成果は、2022年3月10日(日本時間)にInternational Journal of Molecular Sciences に掲載されました。

全文は、東北大学大学院歯学研究科・歯学部ホームページのプレスリリース(2022年3月23日)をご参照ください。

プレスリリース一覧(2022年3月-4月)

- 2022年 3月11日 誰かと食事をする頻度が年に何度かしかない高齢者の体重減少リスクは1.07倍高い(毎日、誰かと食事をしている人と比較して)
- 2022年 3月15日 発達を追いついていく 口唇口蓋裂児の精神運動発達に関する縦断研究
- 2022年 3月29日 間葉系幹細胞の幹細胞性を向上させる新規培養法を開発 間葉系幹細胞塊を神経堤細胞様にする事で骨再生を効率的に一泡を利用した細菌塊“バイオフィルム”破壊技術の開発 顎骨破壊抑制に有効な新規“歯の根”治療技術
- 2022年 4月 1日 COVID-19の情報を得るために利用した情報源によって予防行動の遵守が異なっていた
- 2022年 4月 8日 健康保険適用の白い被せ物はすべての奥歯に適用できる可能性を報告 一歯科用金属の価格高騰対策として期待—
- 2022年 4月14日 加熱式たばこによる受動喫煙への曝露が急激に増加 約10%の人がほぼ毎日曝露され、曝露リスクには教育歴による格差が存在
- 2022年 4月14日 塩分による高血圧が骨粗鬆症を誘発するメカニズムを解明 ～骨粗鬆症予防法の発展に貢献～
- 2022年 4月15日 他者と一緒に笑う人は要介護リスクが低い～友人との会話の中で笑う人は要介護リスクが約3割減少～
- 2022年 4月26日 産まれてすぐに唾液腺が自律神経に反応し唾液分泌機能を発揮するための発生機構を解明 神経制御可能な器官再生医療への一歩



▲歯の移動マウスモデルとMicro-Osteoperforations

NEWS (令和3年12月～令和4年4月)

- 令和3年12月21日(火)～23日(木)に開催された「第80回日本公衆衛生学会総会」にて、歯学イノベーションリエゾンセンター地域展開部門の草間太郎助教が日本公衆衛生雑誌・優秀論文賞を受賞しました。
- 令和4年2月1日(火)、独創的な研究に挑戦する若手研究者「東北大学プロミネントリサーチフェロー」が発表され、歯科法医情報学分野の波田野悠夏助教にその称号が付与されました。
- 令和4年2月5日(土)に開催された「第43回東北骨代謝・骨粗鬆症研究会」にて、口腔生理学分野／顎口腔矯正学分野の大学院生の大島絵恋先生が基礎部門の優秀賞を受賞しました。
- 顎口腔機能創建学分野の尾崎尚先生(現(独)日本海総合病院 歯科口腔外科科長)の論文がAsia Research News 2022年版の研究紹介記事として取り上げられました。
- 令和4年3月4日(金)、東北大学災害復興新生機構・復興アクション事業の一環として亙理町の小学校の卒業生に「お口の成長記録手帳」を贈呈しました。
- 令和4年3月24日(木)に発表されたTHE世界大学ランキング日本版2022で東北大学が1位に選出されました。3年連続での1位選出となります。

ニュースの詳細は、歯学研究科ホームページをご覧ください。
<http://www.dent.tohoku.ac.jp/>

令和4年度行事予定 (令和4年6月～12月)

6月22日(水)	創立記念日
7月12日(火)	大学院入試(10月入学および1次募集)
7月27日(水)、7月28日(木)	オープンキャンパス
9月26日(月)	学位記授与式
12月2日(金)	大学院入試(2次募集)

※令和4年5月時点の行事予定です。新型コロナウイルスの影響により変更の可能性あります。

人事 (令和3年12月～令和4年5月)

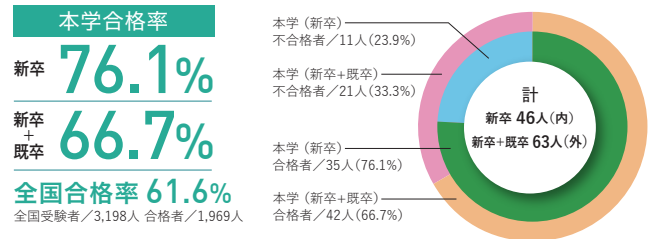
昇任	12月	中村 恵	講師	顎口腔組織発生学分野
採用	1月	NADIA KARTIKASARI	助教	歯学イノベーションリエゾンセンター
採用	4月	中野 遼子	特任講師	世界展開力強化事業推進室
採用	4月	大堀 文俊	助教	顎口腔矯正学分野
採用	4月	近藤 威	助教	次世代歯科材料工学共同研究講座
採用	4月	倉内 美智子	助教	病院 歯科医療管理部
採用	4月	野口 隆弘	助教	病院 矯正歯科
採用	4月	但野 愛実	助教	病院 小児歯科
採用	4月	庄原 健太	助教	病院 咬合回復科
採用	4月	山口 洋史	助教	病院 咬合回復科
配置換	4月	丹田 奈緒子	助教	予防歯科学分野
配置換	4月	石河 理紗	助教	病院 口腔支持療法科
配置換	4月	NADIA KARTIKASARI	特任助教	世界展開力強化事業推進室
辞職	3月	永井 宏和	准教授	顎顔面・口腔外科学分野
定年退職	3月	高橋 哲	教授	顎顔面・口腔外科学分野
定年退職	3月	古内 壽	助教	歯科医用情報学分野
定年退職	3月	森 士朗	講師	病院 歯科顎口腔外科
定年退職	3月	奥山 弥生	助教	病院 咬合修復科
任期満了	3月	佐々木 聡史	助教	顎口腔矯正学分野
任期満了	3月	柿内 裕輔	助教	病院 歯内療法科
任期満了	3月	佐々木 紀代	助教	病院 矯正歯科
任期満了	3月	宮下 牧子	助教	病院 咬合回復科

任期満了	4月	塩飽 由香利	助教	歯学イノベーションリエゾンセンター
任期満了	4月	齋藤 悠	助教	口腔病理学分野

令和3年度各賞受賞

総長賞	高山 慎騎(大学院)、安保 沙羅(学部)
優秀学位研究賞	Yuan Mang、木内 桜、奈良 靖彦、Aseel Mahmoud Suleiman Marahleh
Straumann Award賞	Linghao Xiao
デンツプライ賞	岡田 嘉奈子
モリタ・ハノー賞	滑 文睿
クインテッセンス賞	安保 沙羅、南部 歩乃佳
課外活動賞	村上 光

第115回(令和3年度)歯科医師国家試験合格率



歯学研究科 大学院募集

令和5年4月入学 ・博士課程：42名・修士課程：8名

- 出願期間(1次募集)：令和4年6月6日(月)～10日(金)
- 試験日(1次募集)：令和4年7月12日(火)
- 出願期間(2次募集)：令和4年10月31日(月)～11月7日(月)
- 試験日(2次募集)：令和4年12月2日(金)

※新型コロナウイルス感染症の状況によって入学試験実施日及び合格発表日変更もありません。

詳細は、歯学研究科ホームページをご覧ください。
<http://www.dent.tohoku.ac.jp/>

お問い合わせ

東北大学大学院歯学研究科 教務係
Tel: 022-717-8248 Fax: 022-717-8279

令和3年度歯学部最終講義を開催しました

令和4年3月11日(金)、高橋哲教授と佐々木啓一教授の最終講義が行われました。感染対策のため会場参加人数は最小限としてライブ配信を行い、たくさんの学生や教職員の方々が受講しました。高橋教授はこれまでの研究経歴を振り返り、人との出会いや転機、2人の師に恵まれたことへの幸運などを語りました。佐々木教授は歯科医療の将来展望、今を生きることの大切さを語り、受講生へエールを送りました。高橋教授、佐々木教授、本当に長い間お疲れさまでした。



▲高橋哲教授



▲佐々木啓一教授

編集後記

令和4年4月1日に歯学研究科の英語ウェブサイトリニューアルしました。卒業生・在学生メッセージや動画などを充実させ、東北大学や歯学研究科に実際に訪れたことがない方にも歯学研究科での学生生活や研究活動をイメージしてもらえるようなサイトを目指しました。これからはNewsletterや日本語ウェブサイトでの情報発信に加えて海外へ向けたニュースも積極的に発信していきますので、ぜひご覧いただけます。

(記 上杉)

Interview & Voice : <http://www.dent.tohoku.ac.jp/interview/>
アンケートフォーム : <http://www.dent.tohoku.ac.jp/enq/news25>

編集・発行

東北大学大学院歯学研究科・歯学部 広報室

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町4-1

Tel: 022-717-8260 Fax: 022-717-8279

E-mail: newsletter@dent.tohoku.ac.jp

Facebook: @Tohoku.University.School.of.Dentistry

Twitter: @tohoku_uni_dent

Web: <http://www.dent.tohoku.ac.jp/>